

# 令和4年度 指定管理者制度導入施設の管理運営状況について

港湾振興課

## 1 施設の概要等

施設名	広島観音マリーナ		
所在地	広島市西区観音新町四丁目		
設置目的	海洋性スポーツの振興及びレクリエーション活動の普及		
施設・設備	マリーナ施設(艇置施設、上下架施設、駐車場等)		
指定管理者	4期目	H28.4.1~R8.3.31	(株)ひろしま港湾管理センター
	3期目	H26.4.1~H28.3.31	(株)ひろしま港湾管理センター
	2期目	H21.4.1~H26.3.31	(株)ひろしま港湾管理センター
	1期目	H18.4.1~H21.3.31	(株)ひろしま港湾管理センター

## 2 施設利用状況

利用状況	年度	収容可能艇数	目標値 [事業計画]	艇置数	対前年度増減	対目標値増減 (達成率)
	4期	R4	577艇	295艇	273艇	△17艇
R3		577艇	280艇	290艇	15艇	10艇 (103.6%)
R2		577艇	285艇	275艇	△1艇	△10艇 (96.5%)
R1		577艇	285艇	276艇	1艇	△9艇 (96.8%)
H30		577艇	287艇	275艇	0艇	△12艇 (95.8%)
H29		577艇	288艇	275艇	5艇	△13艇 (95.5%)
H28		577艇	283艇	270艇	△9艇	△13艇 (95.4%)
	3期平均 26~27	577艇	278艇	279艇	△8艇	1艇 (100.4%)
	2期平均 21~25	577艇	296艇	287艇	△41艇	△9艇 (97.0%)
	1期平均 18~20	577艇	—	328艇	9艇	—
	17(導入前)	577艇	—	319艇	—	—
増減理由	大型バースの整備の遅延から、新規申込の延期や解約増により、プレジャーボート及びヨットが前年に対して17艇減となった。					

## 3 利用者ニーズの把握と対応

調査実施内容	<b>【実施方法】</b>	<b>【対象・人数】</b>
	オーナー等やクルージングコンシェルジュ業務を通じて意見を徴収	○オーナー対象・述べ人数：約163人 ○広島県セーリング連盟の役員等：約20人
	<b>【主な意見】</b>	<b>【その対応状況】</b>
	パワーポスの電気容量不足、ハイシーズンの上下架や給油の待ち時間短縮等施設の利便性の向上の他、大型艇の契約の問い合わせが多い。	○危険箇所等については、対応可能な部分の修繕に努めたが、根本的な対応が必要。 ○大型艇についても、艇置可能区画を調整して受入に努めたが、陸上施設は不足している。

## 4 県の業務点検等の状況

項目	実績	備考
報告書	年度	○ 事業報告書、損益決算書、修繕実績報告書、行事実績報告書
	月報	○ プレジャーボート収容状況報告等
	日報(必要随時)	○ 苦情、トラブル等について随時報告
管理運営定例会議(毎月)	<b>【特記事項等】</b> 海上の安全航行のために、マリン業界、広島県水難救済会及び海上保安庁との連携による航行安全活動及びレスキュー活動を広島観音マリーナが中心となって取り組んだ。	
現地調査(随時)	<b>【指定管理者の意見】</b> 施設が老朽化しているため、県が5年ごとに実施している施設点検と同様の調査実施をして欲しい。 <b>【県の対応】</b> 施設の老朽化対策について、指定管理者と連携し今後の修繕の範囲について調整を行う。	

5 県委託料の状況

(単位：千円)

	年度		金額	対前年度増減		年度		金額	対前年度増減
	県委託料 (決算額)	4期	R4	0		0	料金収入 (決算額)	4期	R4
R3			0	0	R3	127,615			11,385
R2			0	0	R2	116,230			△2,579
R1			0	0	R1	118,809			△1,726
H30			0	0	H30	120,535			△1,116
H29			0	0	H29	121,651			5,925
H28			0	0	H28	115,726			4,195
3期平均 26~27		0	0	3期平均 26~27	111,531	12,028			
2期平均 21~25		0	0	2期平均 21~25	99,503	△23,752			
1期平均 18~20		0	0	1期平均 18~20	123,255	11,473			
17(導入前)	0	—	17(導入前)	111,782	—				

6 管理経費の状況

(単位：千円)

項目		R4 決算額	R3 決算額	前年度差	主な増減理由等	
委託事業	収入	県委託料	0	0	0	
		料金収入(※1)	127,156	127,615	△459	収容艇数の減
		その他収入	227,195	83,720	143,475	県からの棧橋修繕委託料の増
		計(A)	354,351	211,335	143,016	
	支出	人件費	48,405	45,564	2,841	職員の増
		光熱水費	12,122	9,820	2,302	電気料金、水道料金の増
		設備等保守点検費	2,140	2,206	△66	
		清掃・警備費等	156,815	22,511	134,304	棧橋修繕業務の増
		施設維持修繕費	20,455	14,257	6,198	棧橋、フロート、パワースト修繕費の増
		事務局費	77,327	73,830	3,497	消耗品、備品代の増
その他		37,951	42,698	△4,747	広告宣伝費の減	
計(B)	355,216	210,886	144,329			
収支①(A-B)		△865	449	△1,313		
自主事業 (※2)	収入(C)	0	0	0		
	支出(D)	0	0	0		
	収支②(C-D)	0	0	0		
合計収支(①+②)		△865	449	△1,313	(うち県への納付金額 19,000 千円) (R4) ※3	

※1 利用料金制：公の施設の使用料について、指定管理者が直接使用料等を収入することができる制度。指定管理者の自主的な経営努力を發揮しやすくする効果が期待され、地方公共団体及び指定管理者の会計事務の効率化が図られる。

※2 自主事業：指定管理者が自らの責任で、更なる施設サービスの向上のために提案・実施する事業

※3 資本費相当額：県が負担した施設の整備費を収益から負担金として納付されている。

## 7 管理運営状況

項目		指定管理者 (事業計画、主な取組、新たな取組など)	県の評価
施設の効用発揮	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設の設置目的に沿った業務実績</li> <li>○業務の実施による、県民サービスの向上</li> <li>○業務の実施による、施設の利用促進</li> <li>○施設の維持管理</li> </ul>	<p>計画していた県外ボートショーへの出展や広島ボートショーの開催等は、コロナウイルス感染拡大防止のため中止・見送りとなった。事務所棟を整備し、免許事業者による免許教室等開催の充実を図った。</p> <p>広島県からのクルージングコンシェルジュ業務を受託し、情報の発信に努めた。</p> <p>艇置契約につながるプレジャーボートのユーザー化に向け、シースタイルによるレンタル事業を3艇体制で展開するなど、推進・充実を図った。</p> <p>入艇紹介制度を継続し、マリン事業者との情報交換を図るなど、新規入艇のための営業活動を推進した。</p>	<p>コロナ禍によりイベント等は中止になったが、事務所棟を整備し、免許事業者による免許教室等開催の充実を図るとともに、レンタル事業の推進やマリン事業者と連携し新規需要の掘り起こしに努めている。</p>
	管理の人的物的基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織体制の見直し</li> <li>○効率的な業務運営</li> <li>○収支の適正</li> </ul>	<p>広島観音マリーナと広島地域マリーナを総括的に担当する入艇促進・企画担当部長を配し、新規契約の増加や解約防止の推進に取り組んだ。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止策の影響による駐車場及びビジターの利用減に伴う減収、設備老朽化による修繕費等の増に伴う支出の増により収益が大幅に減少した。</p>
総括		<p>大型艇のシングルバース更新決定と周知を行い更なる入艇増を図った。</p> <p>管理経費の抑制に努め、効率的な施設運営に取り組んでいる。</p>	<p>大型艇のシングルバース整備により利用者の満足度の向上が期待されるとともに、県民に対する海洋性レクリエーション活動の普及にも継続して注力しており、施設の効用発揮が促進されている。</p>

## 8 今後の方向性（課題と対応）

項目	指定管理者	県
短期的な対応 (令和5年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大型艇誘致を含む収容艇数の維持増大。</li> <li>○海上新Bバースの周知と予約促進。</li> <li>○ボート免許事業者との連携による受講者へのマリンレジャーへの取り込み動機付けの推進</li> <li>○チャーター事業、レンタル事業及びマリーナアライアンス事業の活用による、クルージング需要の訴求</li> </ul>	<p>令和5年度に供用開始する新Bバースを始めとする指定管理者が実施する施設の利用促進について、取組への協力を行う。</p>
中期的な対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適切な施設の維持管理及び施設更新の調整</li> <li>○海上保管を敬遠する地域性から陸上保管は満艇である。海上保管の利便性、経済性などの差別化と県外需要の訴求</li> <li>○マリーナの魅力発信による利用拡大 <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページを活用してモノ(施設・設備)訴求からコト(楽しさ・安全)訴求による幅広い層への訴求力向上と誘因力を強化する。</li> </ul> </li> <li>○広島エリアにおけるマリンレジャー中核拠点として、広島の魅力向上と観光需要の拡大</li> <li>○ボート免許から所有・保管に至るまでの安心・安全なサービスの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指定管理者と連携を図りながら、施設の更新・修繕計画の策定を行う。</li> <li>○経営基盤強化のための保有・管理資産の活用及び県民に対する海洋性レクリエーション活動の普及・発展に向けた取組への協力を行う。</li> </ul>